

理事長挨拶

開学60周年「新生・中京大学」

学校法人梅村学園理事長

梅村清英



「NEXT10」は、学校法人梅村学園の中核を担う中京大学の長期計画です。2014年度は開学60周年にあたり、その記念すべき年が「しなやかに挑み続ける新生・中京大学」のスタートとなります。建学の精神「学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ」の深化と進化を図ります。さらなる殿堂を築き上げましょう。

本学ではこれまで施設、制度など教育環境の整備は着々と進んできました。名古屋キャンパスには昨年、新たに本部棟、図書館・学術棟、工学部実験棟が完成しました。当面の整備計画はこれで一段落です。学部および大学院研究科の構成では、11学部、11研究科となりました。総合大学にふさわしい内容と言えるでしょう。

学生はますます元気です。入試戦線での地位は着実に高まってきました。就職戦線では有力企業に大勢の内定者を出し、最難関の国家公務員総合職に多数の合格者、最終的な採用者を輩出するまでになりました。卒業生に弁護士、公認会計士の肩書も並びます。語学教育や資格教育の充実が入り口と出口の成果につながっています。

とはいえ、少子高齢化社会の到来やグローバル化の進展など外部環境の変化は次代の教育の在り方を不断に問い掛けてきます。「NEXT10」はそうした中で策定しました。これまで目標に掲げてきた「中部地区の私大No.1」に向けて、教育力と研究力のさらなる充実を目指します。

教育力とは「自ら考え、行動することのできるしなやかな知識人を育てる」ことです。研究力とは「教員の研究における自主自律並びに多様性を尊重し、研究活動を支援する」「若手研究者の研究環境を整備する」ことです。そして今一度、建学の精神に立ち返り、自校教育の浸透を図ります。

「ひたむきに走り続けてきた」。それが本学の歴史です。これからも走り続けましょう。その道標となるのが「NEXT10」です。学生、教職員、卒業生、保護者、すべての関係者にとって「愛すべき母校」であり、「誇るべき母校」へ。そのために結集できる体制づくりこそ重要です。みなさんのご協力を切に望みます。

学長挨拶

中京大学学長
北川 薫



「NEXT10」は着実にスタートをし、各プロジェクトの推進が、学内外で進んでいます。

「留まることのない挑戦と改革が、中京大学の歴史である」と常々、話しているように、11学部と11研究科を擁し、名古屋と豊田の2キャンパスに学生数1万3千人余という日本有数の総合大学に発展したのは、この挑戦と改革の賜物です。

しかし、少子高齢化やグローバル化が急進展するなか、建学の精神「学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ」に今一度立ち戻りつつ、教職員でのチームワークを堅固にし、協働のベストを尽くす新たな改革像を描いたのです。

学内においては教育と研究のレベルアップを図る各プロジェクトが動いています。学外においては、大学が依って立つ地域社会や、社会で活躍する卒業生・同窓生と連携し、国際化を進めます。21世紀の新たな中京大学を学生、卒業生、教職員が互いに手を携えて、創造していきましょう。

名誉理事長挨拶

学校法人梅村学園名誉理事長
小川英次



「NEXT10」は、中京大学が今後10年間で目指す内容が網羅してあります。理事長在任中、若き梅村清英先生（現理事長）に、策定を強く望み、推進を託したものが、いよいよ実施となります。生涯の研究テーマである生産管理の立場から、そこでは変化と連携のマネジメントが重要となることをあらためて強調させていただきます。

本学はこれまで順調に発展を遂げてきました。とはいえ、それは決して今後の飛躍を保証するものではありません。少子高齢化など教育環境の変化は不可避です。対応は拙速に陥ることなく、迅速を旨としましょう。

学園は本学のほか、附属高校など多くの教育機関、学生、教職員、卒業生、保護者を始め、ご支援をいただいている全ての皆様によって成り立っています。連携の強化が必要であり、その基盤は相互信頼です。「信頼の大学」を築き上げましょう。